資料１

資源管理WG委員名簿

2017年5月8日現在

【委員】

崎田 裕子	ジャーナリスト・環境カウンセラー NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット 理事長
杉山 涼子	株式会社杉山・栗原環境事務所　取締役
細田 衛士	慶應義塾大学経済学部 教授
森口 祐一	東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 教授
臼井 万寿雄	東京都オリンピック・パラリンピック準備局 大会施設部 施設調整担当課長
古澤 康夫	東京都環境局資源循環推進部計画課 資源循環推進専門課長

（敬称略、五十音順）

【オブザーバー】

勝野 美江	内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局 参事官
鈴木 弘幸	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部リサイクル推進室 室長補佐

（敬称略）

資料2

第4回資源管理ワーキンググループ

議事録

1. 日時：2016年10月17日月曜日　13時～15時
2. 場所：三会堂ビルディング4階　4A会議室
3. 参加委員：崎田座長、杉山委員、森口委員、臼井委員、古澤委員、鈴木オブザーバー、勝野オブザーバー代理
4. 議事録：

※議事録では「ワーキンググループ」を「WG」、「ディスカッショングループ」を「DG」と記載しております。

- 事務局　皆様、お時間になりましたので始めたいと思います。皆様本日はご多用の中、また足下の悪い中お集まりいただき、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、第4回資源管理WGを開催いたします。本WGはメディアの皆様にも公開とさせていただきます。カメラ、スチールの皆様は冒頭撮影のみとさせていただきますが、ペン記者の皆様は会議の傍聴を可能とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。それでは開会にあたりまして、崎田裕子座長より一言ご挨拶をお願いいたします。
- 崎田座長　崎田です。どうぞよろしくお願いいたします。この資源管理WGなんですけれども、大会の施設整備、そして運営に関して、資源管理を徹底するということについて色々と話し合いをするところです。基本的には3Rの徹底ということで、どういう風にしっかり目標を立てて具体的にやっていくかというところを、皆さんと色々パブリックコメントのご意見などを参考にしながら関係者の皆様とお話しをしていくわけですが、今日もよろしくお願いいたします。
一言、スタートの前にご挨拶申し上げたいのは、ちょうど私もリオに行ってまいりました。ただ、私はパラリンピックの方に個人の立場で行ってまいりましたので、拝見できるところは限られていました。後ほど正式なリオ大会の視察結果は組織委員会の方からご報告いただくということで予定されておりますので、そこで資源管理、特にその分野はしっかりとそこで共有をしていきたいと思っております。
なおこの資源管理WGは、持続可能性DGの下に設置されているわけですけれども、その持続可能性という観点から一言パラリンピックの印象を申し上げると、今まで私どもインクルージョンの視点では全世界の方々、言語とか習慣、宗教、文化的背景、色々な方が一緒になって共有できるような大会運営をということで考えておりますけれども、そこにパラリンピックの精神が入ってまいりますと色々な障害のある方がたと共に取り組むわけです。これから超高齢化社会を迎える日本で本当に他人事ではなく、私たちにとっても関係のあることなわけですので、そういう意味で今回2020年に持続可能なオリンピックを実現させていくという

こと、そしてその後の社会にレガシーを残していくということを考えると、オリンピックはもちろんパラリンピックをきちんと成功させることが非常に大事だと強く印象を持ちました。そういう思いのもとに私は帰ってまいりましたけれども、準備の段階ではオリンピック・パラリンピックも同じように準備していきますので、これからしっかりと皆さんと細かいお話しも詰めていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

- 事務局　崎田座長、ありがとうございました。本日は崎田座長をはじめ、総勢7名の委員およびオブザーバーにご参加いただいております。森口委員は14時30分くらいまでのご出席、また杉山委員は13時半くらいからのご出席となっております。それではプレスの皆様、冒頭撮影はここまでとなりますので、よろしくお願いいたします。
  以後の議事進行は崎田座長にお願いいたします。

- 崎田座長　ありがとうございます。それでは早速、今日も色々内容がありますので進めてまいりたいと思います。
  最初に議事を進めるにあたって、前回の振り返りをきちんとしていただいてからということで、事務局からご説明いただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

- 事務局　資料2を使って、前回の議事内容について説明。

- 崎田座長　ありがとうございます。詳細な議事録を公表していただくような形になってきました。これに関してどなたかご質問など。古澤委員お願いします。

- 古澤委員　今のお話しで、パブリックコメントを踏まえた議論については、後日個別にご説明をさせていただくということであったのですけれども、元々今出ている運営計画には、WGを設置して専門的な視点で議論を深めたという記載になっていますので、どういう形でその後議論していくのかということも併せてご説明いただければと思います。

- 事務局　今回のWG、DG、それから委員会も含めてなのですが、なかなか委員の皆様の日程を合わせることが難しくなっております。我々としてはやはりちゃんと集まってお話しいただくのが当然一番良いと考えておりますが、ただ皆様非常にお忙しい中ご参加いただいている関係上、個別にご説明させていただき、いただいた意見をまた整理して皆さんに共有させていただいて、そしてWGとしての考え方という形で、短期間になってしまうと思いますがとりまとめをさせていただきたいと考えております。

- 古澤委員　わかりました。確認ですが、もう一度改めてパブコメへの対応について各委員の意見を聞いた上で、それをWG全体で集約をして議論をまとめた上でDGに報告という形でよろしいですか。

- 事務局　はい。ただ、何度も往復というのは難しいので、崎田座長に最後はご相談するということもあろうかと思いますけれども、その点はご承知おきいただければと思います。

- 崎田座長　古澤委員よろしいですか。ありがとうございます。全員でできるだけ話し合いというか意見交換がきちんとできるような場を確保していただくということで進めていきたいと思います。ありがとうございます。森口委員お願いします。

- 森口委員　古澤委員が確認されたことで尽きているのかもしれませんが、もう少し具体的に伺いたいのですけれども、今回のパブリックコメントで大変多岐に渡って多様なご意見いただけたことは大変ありがたいと思います。色々なこの種の検討の場でパブリックコメントに対してどういう風に回答していくかということは、これまでも色々な場で経験させていただいているのですが、今日委員限りの資料とまとめた資料とあると思うのですが、どのようなレベルで回答されますか。よくあるのはある程度括った意見で、類似の意見ということでそれに答えられる場合と、生のものに対して丁寧にお答えになるケースがよくあると思いますので。そのあたりどういう風にお考えかと。あとスケジュール感といいますか、できればだいたいの回答案があって、こういう場で直接多くの方が一堂に会した場で、そこに目を通せるのがベストかと思いますが、そこは難しいというお話しだったので、だいたいのスケジュール感がどんな感じで進めていかれる予定かお聞かせいただけますか。

- 事務局　今組織委員会の中、それから関係する機関の方々とパブリックコメントに対してどうするのか、また各機関からもご意見いただいているところもありますので、そこを整理した上で回答についても情報の公開を図っていきたいと考えております。一対一対応で答えが出せるか、ある程度集約する形になるか、そこは未定のところはありますが、できるだけ透明性を高めていきたいと考えております。
今後の予定ですが、11 月 7 日に DG を予定しておりますので、その前には皆様のところへご説明に伺い、先ほど申し上げた意見のとりまとめというところ、非常に短期間になってしまいますが、させていただきたいと考えております。

- 崎田座長　ありがとうございます。確認なのですが、今ご質問のパブリックコメントは今日の議題の 3 にある運営計画の第一版のことでよろしいですか。そうすると、後ほどもう一度きちんとペーパーをご説明いただくということでよろしいですね。森口委員、今日はそこまで大丈夫ですか。

- 森口委員　はい、大丈夫です。ここに議題に上がっているのは理解していたのですが、ちょうど冒頭のところで説明があって、そこに古澤委員が質問されましたので。

- 崎田座長　わかりました。では、もう一度内容に関してご意見などお話しいただければと思います。ありがとうございます。では、今日の情報共有、議事の 2 番にある低炭素 WG や持続可能な調達 WG、こちらでの話というのは関連して大事ですので、検討状況を共有させてください。事務局からご説明いただければと思います。

- 事務局　資料 3 を使って、他 WG の検討状況について説明。

- 崎田座長　ありがとうございます。今の内容について、ご質問等あればよろしくお願いいたします。古澤委員お願いします。

- 古澤委員　他の WG の議論との整合を図るということで大変大事だという話が冒頭でもありましたけれども、低炭素 WG、私どものところはそれぞれの WG の状況も聞いておるのですけれども、詳しく聞いていらっしゃらない先生方もいらっしゃるので、低炭素 WG での議論の内容についてもう少し詳しくご紹介いただいた方がいいかと思うのですが。

キャッチフレーズに関して、持続可能性全体に関わる議論がされたという風にも伺っているのですが、その内容と、それから低炭素WGの時に調達コードの関連でどういったことが論点になっているのかということについてもご紹介いただけないでしょうか。

- 崎田座長　もう少し詳しくというご質問というかご要望がありましたので、お願いしたいのですが。
- 事務局　低炭素WGの会議では、まず、元々カーボンの目標ということで議題に上げていたのですが、そもそもターゲットはどこに置くのかというところで、本当にカーボンだけのキャッチフレーズでいいのか、それとも持続可能性全般に広げて捉えて議論した方がいいのか、そういったお話しもございました。
- 古澤委員　それは例えば、私も傍聴していた時にRoad to Carbonのような言葉が出ていたと思うのですけれども、そのようなことですか。
- 事務局　言葉も含めてですか。意見としてありましたのは、持続可能性全体という意味では、例えばOne planet, one futureとかですね。カーボンについては、No Carbon Olympic、こんなご意見があったり、Net zero impact、Road to carbon zero、それから環境省さんで今取り組まれているクールチョイス、こういった言葉などがご意見として出ておりました。
- 古澤委員　わかりました。あと調達コードの関係は。
- 事務局　調達コードの関係でより具体的にご紹介すると、例えば現時点の案では、一つは省エネルギーのところの基準について「努めなければならない」という言葉があるのですが、それだとロンドンに比べて弱いのではないかということがあって、ロンドンと同じような書きぶりにしてほしいという意見が一つありました。
- 崎田座長　ありがとうございます。この辺、私も今のお話しを伺いながら意見が出てきましたけれども、5番の調達コードのところでその辺も。ここで議論し始めると長くなりそうですので、と思います。
  キャッチフレーズに関するご意見などが出てきていますが、この資源管理WGも現実の何をやるべきかという、現実のところはじっくりと話し合いつつありますけれども、キャッチフレーズというか社会に訴求するような明確なテーマ出しが必要ではないかということは共有して、具体的な意見出しはしましたけれども、決定するまでの細かい議論はこれからということでお話しをしてきましたので、またじっくりと意見交換をしていきたいという風に思います。
  それから、今省エネ基準、努めなければならないという言葉をもう少し明確にというお話しがありました。後ほどこの色々な調達コードとか、具体的な実施をどう担保するのかというあたり、きちんと状況を伺えればと思います。よろしくお願いいたします。
  それでは進めていきたいと思います。議事の3番に先ほどもご意見が出ました「持続可能性に配慮した運営計画　第一版」に対する意見募集の結果報告ということがありますので、よろしくお願いします。
- 事務局　資料4を使って、パブリックコメントの結果について報告。

- 崎田座長　ありがとうございます。これに関してご質問などいただければと思います。もし特に何かご意見があればおっしゃっていただければと思いますが。
  これを拝見しておりますと、資源管理に関しては、この前のパブリックコメントではかなりご意見が出てきていましたので、そういうところでもうみなさんご提案をしたというお気持ちが強かったのか今回数は少ないですけれども、大事なことは言っていただいてますね。かなりここでも議論したことはありますが、議論に入れていないものがいくつかあるというようなことで。これからの議論にきちんと参考にさせていただくということですけれども、今まで出てきていなかったのは、車から車へとかそういった具体的なお話しになりますね。あとこの雨水貯留、多面的な雨水活用に関しては、生態系の項目ではなくこちらの方に入っているのですね。
- 事務局　水資源という観点でのご意見です。
- 崎田座長　わかりました。何かご質問は。森口委員。
- 森口委員　極めて具体的な確認になるのですけれども、8 分の 5 ページの資源管理の目標達成に向けた施策の一つ目、近未来のテーマ「廃棄物由来エネルギー（発電等）の実践」こそ、世界に誇るレガシーとなると書かれていて、詳細版を拝見するとその前に「立候補ファイルにある廃棄物からエネルギーへの原点に立ち返ることを念頭におくことが重要である」と書かれています。廃棄物由来エネルギーというか、廃棄物をエネルギーとして使うのはもちろん他に利用がない場合は重要なのですけれども、日本でもヒエラルキーというか優先順位から言えば比較的下位の方ですし、もう欧州ではエネルギー利用はリサイクルとは認めないという考え方が主流なので、そういうことになると何か意図をもってお書きになっているのではないかと思うのですが。その立候補ファイルにある、と書かれているので立候補の段階で何かこれを強調したことをお書きになった、そういう経緯があったのでしょうか。もし今わからなければ後で教えていただければ。つまり、東京が立候補するにあたってこれをキャッチフレーズとして書いていて、かつ何か意図があったのであればそれは大切にしなきゃいけないかなと思ったものですから。全体としての確認をお願いいたします。
- 崎田座長　その辺の状況がおわかりの方いらっしゃいますか。
- 古澤委員　私が覚えている限りでは、今確認していただけると思いますが、3R の優先順位を、順番を変えるようなことはないはずです。
- 事務局　今立候補ファイルを手元に用意しますので、後ほどご回答させていただきます。
- 崎田座長　わかりました。では確認していただいているということで話を進めたいと思いますが、先ほど古澤委員からお話しがあったように、3R のリデュース、リユース、リサイクルの徹底とその後の熱エネルギー活用の徹底というその辺の流れは踏まえているうえでの話のはずということですが、一応確認をいただくということで後ほどご回答いただきます。ありがとうございます。他に。古澤委員お願いします。
- 古澤委員　これはコメントなのですけれども、先ほど崎田座長も触れられた使用済み自動車由来の鉄スクラップの話なのですけれども、鉄のリサイクル関連で特に注目した形で、今回

の分類では気候変動のところに入っていると思うのですが、この資料で言いますと 8 分の 3 ページの下の方にいくつか再生材の関係がここでも触れられているという風に思っています。やはり建築資材の再生材、あるいは電炉鋼材についてのご指摘があって、こういう観点も含めての、要は再生資源を使っていくことによってカーボンが下がっていくということもトータルとしてパブリックコメントのご意見だと理解しております。

- 崎田座長　ありがとうございます。再生材を使った方が効果的なところはできるだけ使っていただくと、そういうような話でこの会合自体も来ておりますけれども、こういうご意見もしっかりきているということで。ありがとうございます。
  それでは先ほどお答えいただいたように、これに関してはもう少し時間をかけて議論をさせていただく機会を持つということでよろしいですか。
- 事務局　はい。個別にこれらのご意見に対してどう対応するのか、第一版でどこまで対応するのか、第二版の検討過程でどう対応するのかというところを整理してご報告したいと思います。
- 崎田座長　報告というのは、次の。
- 事務局　次の DG の前までに。
- 崎田座長　それで意見交換をするということですね。わかりました。今はまとめた段階ですので、じっくりと内容を検討してまた意見交換の流れを作ってくださるということで。よろしいですか、委員の皆様。古澤委員お願いします。
- 古澤委員　資料 4 の 2 のパブリックコメントをいただいた A3 のペーパーなのですが、1 ページ目の 5 番のところにも情報公開についてご指摘があります。意見募集に寄せられた意見全文、それに対する組織委員会からの回答・対応もすべて公開すべきであると。非公開になる場合はその理由も明示すべきである、ということで、そうすると先ほどからのお話しを整理すると、元の運営計画に寄せられたパブリックコメントの意見とどう対応するかも含めて、議論の整理がついた段階なり、あるいは事務局の案を作られた段階で公表されるという理解でよろしいですか。
- 事務局　そういうことで考えております。
- 古澤委員　DG の前に。
- 事務局　それはもう少し後になるかもしれません。タイミングとしては今即答できないのですけれども、いずれ公開することで考えています。
- 古澤委員　DG の時には、どう対応するかの案も含めて出てくるんですよね。
- 事務局　そうです。
- 崎田座長　DG まであまり日にちがないですが。少し協力しあって作業を進めていただければ。残業があまり多いと、また色々とサステナブルにならないので、上手くみんなでやっていきましょう。よろしくお願いします。
  杉山委員、今意見募集のところにきましたので。また意見は、事務局の方が色々と意見を聞

いて下さる機会もあるということですので、またゆっくりと発言いただければと思います。事務局お願いします。

- 事務局　先ほど森口委員からありましたご意見について、立候補ファイルの記載の仕方ですが、古澤委員からもお話しがありましたが、立候補ファイルには、3R のことを前提としてまず書いておりまして、徹底的に廃棄物を無くす大会であるとしつつ、その 3R の取組を行ったうえでやむを得ず残った廃棄物は可能な限りエネルギーへの活用などを行う、という記載になっております。

- 崎田座長　流れはきちんと書いてあるということですね。

- 森口委員　ということであるとすると、パブリックコメントのご意見の趣旨が立候補ファイルに書かれたものの引用とは少し趣旨が違ったのかなと思ったのですけれども、そういったことも含めてコメントを出される方の側もある種の責任をもってコメントをされていると思いますので、そういったことの透明性を確保するという意味でも先ほど古澤委員がおっしゃった資料の 4 の 2 の生の意見で公開されているということ自身が手続きとして大変大事だと思います。今日はコメントが来たばかりなのでこれに対する答えがまだ決まっていないということで、今日は委員席上のみ配布ということだと思うのですけれども、これを受けとめるのであれば、本来であれば今日も委員席以外にも配布いただいた方が望ましいのではないかと思います。これはまだ決まっていないから、今日はこういう対応をとられたのだと理解をさせていただきます。この議論自身が見えなくなることがもったいないかと思います。

- 崎田座長　ありがとうございます。色々と大事なご指摘をいただきました。
それでは進めていきたいと思いますが、今日は少し現実の状況を情報提供いただきながら、みなさんと大事なところを話し合っていきたいという風に思っております。議事次第の 4 番ですね、リオ大会の視察結果の共有ということで組織委員会の方からご報告をいただけるということで、よろしくお願いします。

- 事務局　資料 5 を用いて、リオの視察結果について報告。

- 崎田座長　ありがとうございます。最後に廃棄物が発生しない調達とか引き取り先を考えた調達が大事というお話しがありまして、この次のテーマではその辺が大事になってくると思います。今ご発表いただいたことに関して何かご質問とかあればぜひ。
私も実際にリオのパラリンピックに伺って、私は一般人が入れるところにしか入れなかったので、かなり色々見てきていただいて興味深く伺いました。一つだけ私の方から先に申し上げると、最初にお話しされたように、今後データがリオの組織委員会から発表されると思うので、現実のデータなどと照らし合わせてもう一度じっくり振り返る時間があるといいという感じがいたしました。何かご質問等あれば。

- 臼井委員　選手村のベッドなのですが、リオでロンドンから引き継いだのはフレームだけですか、それともマットレス部分も含めて。

- 事務局　私が聞いているのはフレームだけ、というかフレームを引き継いだと聞いております。

- 臼井委員　ちなみに、東京ではまたさらにそれを引き継いだりする予定はありますか。
- 事務局　引き継げたのが、調達する企業さんがたまたまロンドンとリオが同じだったということがあって、東京大会ではスポンサーさんが別にいらっしゃいますので、そういったところはまた違う選択肢になるかと思っております。
- 古澤委員　1 点ご質問なのですが、ルックがずいぶんたくさん使用されるということでこの資料ですと 15 ページでしょうか。この素材ですが、ロンドンの時はターポリンだったと思うのですが、これどんな感じだったでしょうか。
- 事務局　素材の確認はできておらず、再生利用材が使われていたかどうかというのは今後、リオの組織委員会がほぼ閉じられている形になっているのですが、確認していかないといけないと思っています。
- 崎田座長　全体の施設整備と施設の中の家具とか什器の問題と、運営上の問題と、じっくりと考えていくと色々な課題が具体的に見えてくると思います。ありがとうございます。
  それで、先ほど分別ボックスの表示が小さくあるけれど、具体的に入れる時にわかりづらいというお話しがあったのですが、オリンピックパークの中に、ここまで数多く置くのかと思うくらいごみと資源分別のグレーと緑のボックスがたくさんあって、ポイ捨てをする余裕はなく必ずどっちかには入れるので、会場としてはとてもきれいです。ただし表示などがどっちにどっちを入れたらいいかというのがあまりよくわからないので、中を開けてみるとほぼ同じようにごちゃっと入っているという感じでした。あまりはっきり言ったら申し訳ないですが、わりにそういう感じでした。やはり各国から来てくださる方にちゃんと分けていただくようにわかりやすくするというのは、すごく大事なことだと思いました。ただし、写真にもあるように街中で、観光地とか新しく置くようなところは 4 分別とか 3 分別とか結構たくさんの分別ボックスがおいてあるところが多いのです。そういう方向性もあるというか、これから定着するというところだったのかなという印象があります。あと食品ロス削減のことで、ここ数年国連の食糧農業機関が警鐘を鳴らしている流れの中で、やはり世界の食料生産の 3 分の 1 が食品廃棄物になっているということで、国際的な課題として強く言われています。食品ロス削減をした上で出た食品廃棄物はちゃんと、日本の優先順位だと飼料化、肥料化、ガス化とか、エネルギー活用といった流れがありますけれども、そういったことを徹底していくとか、きちんとやっていくことが大事だという感じがして見てきました。私は、選手村は拝見できませんでしたけれども、選手村の中では文化対応や宗教対応で結構色々食品ロスが出ていると思いますので、実際の選手村なり、そういうところでの食物管理とか、そういうところは大事になるという感じがしております。
  あと何か。鈴木さんお願いします。
- 鈴木オブザーバー　ご報告いただいた内容で一つだけ確認をしたいと思っていますが、分別をするところがウェイストピッカーという分別者と言われる人で、さきほどの事務局の話だと何となくお仕事でやっているようなお話があったかと思うのですが。例えば日本でやるとなった場合はボランティアとか、そういうことになろうかと思うのですが、要するに仕事としてやるかボランティアとしてやってもらうかで、責任の割合だとか、やってもらう人数だ

とか、変わってくるかと思うのですが、その辺はどのような感じでしょうか。

- 事務局　私の印象だけで大変恐縮ですけれども、先ほどのピッカーと言われる方々はどちらかと言えば貧困者層で、ブラジルの中でそういう方々の収入源になっている形なので、日本でそれを当てはめるというのは現実的ではないのかなと感じました。なのでそういった方々の雇用対策といったことも多分にあったのかなと。実際に行って、私が感じた限りでは治安は報道ほど悪くはないという印象を持ちましたが、競技場からすぐのところにファベーラという治安が不安定なところがあって、そういったところ出身の方々かどうかはわかりませんけれども。ですから日本でのボランティアとは質が違うのかなという印象を持っています。
- 古澤委員　私も報道等で読んだレベルなのですが、ウェイストピッカーというのは多くの発展途上国で、街中ですとかごみ処分場とかで有価物を拾い集めて生活をされていらっしゃる方々たくさんいらして、そういった方々をどうやってリサイクルとか、その方々の労働条件の改善とか、色々な分野で課題がどこの国でもあるんだと思うのです。そういう中でこのリオの取組みはそういう方々にきちんとした給料を支払う形で雇用されたということで、参加された方も大変歓迎されているという風なコメントもされていましたので。日本で同じようなことを考える云々ではなくて、非常にリオ大会の素晴らしい取組みだったのかなと感じました。
- 崎田座長　私もコメントさせていただくならば、リオでは経済的にオリンピック直前まで社会の中でデモがあったりしたので、かなり経済対策、雇用対策を徹底するということをやっておられたと思います。それで例えばこの資料 7 ページ、8 ページあたりにオレンジ色の洋服を着た方々、この方たちは実際にごみ箱、資源箱を管理するご担当の方たちのユニフォームなのですが、いわゆる会場のボランティアという人たちは会場の道案内のところには非常に大勢いまして、その方たちの服は、資料 2 ページの黄色と緑の絵の付いている洋服がボランティアの方たちの洋服で、結構靴から全部揃って、お一人 2 セット配られているという話も聞きましたけれども。これを着ている方たちがボランティアで、その方たちが街の道案内から当日の会場の入場のチケットを見るとかですね、そういうところまでやっておられる。すみません、この方たちは、ボランティアだけでなくスタッフも同じ洋服なのですか。
- 事務局　スタッフとボランティアで同じユニフォームです。ですので、道案内とかも、色々な方々がスタッフの方に声がけをしてくるような状態で、例えば仕事をしている時にも色々なお客さんが声をかけたりしたようです。
- 崎田座長　スタッフというか全体を見る職員の方と、ボランティアの方とは制服を分けておいた方がいいとかそういうことですか。分けておいた方がいいですかね。
- 事務局　そこは人によって意見があって、観客ときちんとお話しができるということで一緒の方がいいという人もいるし、別々の方がいいという人もいらっしゃいました。
- 崎田座長　これからそういうことも考えていかなければいけないということですね。鈴木さん、よろしいですか。リオの場合にはこういう感じでした。
- 鈴木オブザーバー　ごみを出す人の意識というのは、多分 4 年経ってもそれほど変わらない

のかなと。もちろん意識が高まっているのかもしれませんけれど。逆に受け入れる側の体制がどれだけできるかによって分別ができたりとか、資源循環ができるようになるのだろうと思っています。そういう意味ではこれから組織委員会が考える中で分別をどこまでやるか、どういう人材にどのように手伝ってもらうかというところは、すごく大切なテーマではないかと思っていますので。日本で実際に、古澤さんにご説明いただいたように雇用対策としてそれを入れるというのは少しイメージがしづらいかなという中で、ボランティアさんの中にT シャツを着てリオでご案内していたような方と、ウェイストピッカーと称されたオレンジ色のユニフォームを着た方が両方ともボランティアベースで運営するということになろうかと思いますので、そういう人づくり的な観点ということで考えていかなければならないのではと感じます。

- 森口委員　今の話と２つほど気になっていまして。分別に関しては、やはり国によって相当普段のスタンダードが違うわけですよね。ですから、日本でやった場合には日本からの観客の方が多いかと思いますけれども、そもそも日本のこういう分別に適応できる国とそうでないところが、そもそもスタンダードが違うので、そういう意味では日本でボランティアにお願いするとすれば、そういうことに不慣れな方に日本ではこういう風に分けているんですということをガイドしていただくということはありうるかなと。そうすればその後誰か作業員が分けるという必要はなくなるかなと思いますので、そういう方法はあるのかもしれないと思います。
  もう一つは、これは申し上げた方がいいのかどうかわかりませんし、資源管理 WG の話ではないのですけれども、そういうウェイストピッカーとかいう話が出ましたので。そういう意味での持続可能性というか社会の中にある、ある種の役割分担であるとか、そういうところは非常に重要なところで、それが東京オリンピックの上で具体的に出てくる話ではないかな思うのですが、そういうところはどこかの委員会できちんと扱われているのかどうか。それとも持続可能性という非常に広い中で、この資源管理ではないとしても、持続可能性の DG とかそういったところまで扱わなければならないのかというところも、少し配慮は考えた方がいいのかなと、今廃棄物処理のところで気になりました。誰と誰が同じものを着るのかといった話も非常にそういったところに関わってくる、割にセンシティブな話かなと思います。

- 崎田座長　ありがとうございます。日本の中での福祉対策とかそういうものはどういうところで考慮しているのかとか、パラリンピックもありますので、そういうことはかなりきちんと考えていると思ってはいますが。

- 森口委員　思ってはいますが、この例を出すのがいいかどうかわかりませんけれども、やはり日本で入場行進の時に誰が前に出るのかといったような話も含めて、そういったところの日本のものの考え方とある種の世界的な諸々の考え方を含めて、やはりどこかで注意を傾けていかなければいけないかと思います。

- 崎田座長　ありがとうございます。杉山委員、お願いします。

- 杉山委員　単純なことで教えていただきたいのですが、場内の色々な表示の言語というのはポルトガル語と英語の２か国語ですか。

- 事務局　そうです。
- 杉山委員　それは統一されていたのですか。
- 事務局　統一されていました。
- 杉山委員　そういう決まりというのは、オリンピック大会で、言語は何か国語以上にしないといけないとかあるのでしょうか。それとも現地で決められるのでしょうか。具体的に日本では、一般的に今外国語表示というと中国語、韓国語と英語はもちろんですけれども、ということをされることが多いものですから、その辺もしお考えがあったら教えていただきたいと思います。
- 事務局　持続可能性セクションの担当ではなく、今手元に情報がないので検討状況を含めて担当部署に確認をとらせていただきます。
- 杉山委員　分別も、読めなかったから分別できなかったということもあるのかなと思ったものですから。
- 崎田座長　今環境省で、このオリンピックでの活用提案も見据えながら、これからの日本の中での分別のピクトグラム、どんなデザインを提案したらわかりやすいかという委員会が始まっておられるので、上手くいい成果を出していただければそれをきちんと活用することもできるはずです。他人事のように言ってはいけないのですね、私も委員ですので。
- 鈴木オブザーバー　ピクトグラムと分別をサポートするスタッフというのが二つのキーワードだと思うのです。あとはごみ箱の数だとかそういうハード的なものはあるかもしれないですが。そういったところを上手く東京大会につなげていかれるといいのかなと思います。
- 西中大会準備運営第一局次長　一つ確認させていただいてよろしいですか。今話題に出ましたピクトグラムの検討委員会というのは、対象にしている分野というのは環境あるいは資源循環ということですか。
- 鈴木オブザーバー　はい、分別、ごみ箱のイメージだと思います。
- 古澤委員　森口先生が途中退席されるということで、教えていただきたいのですが、先ほどご説明の中でリオの金メダルで水銀を使わずに抽出した金を採用というところで、いわゆる小規模金採掘で特に南米では色々と問題が多いのだろうと思うのですが、当然金ですので国際マーケットで動いている。金の水銀に限らず、日本の金属資源の問題もあるんだと思うのですが、当然日本でも十分注意すべき話として理解しておいてよろしいでしょうか。
- 森口委員　そう思いますが、どこまでトレーサビリティをということですよね、おそらく。やはり切りがなくて、さきほどCar to Carリサイクルのような話もありましたけれども、リサイクル材だって元はバージン材から一度作らない限りリサイクル材にならないわけで、すごく極端なことを言えば今小型家電から金メダルと言っていますが、その元々の小型家電の金はちゃんと水銀なしで作ったのかというところまでのトレースは、もう今となっては実施上不可能だと思うのです。そういうところも含めて、どこまでこういうことをやっていくかという話については、調達側でやるかここでやるかわかりませんが、いずれにしても金属精

錬というのは基本的には非常に環境影響の大きいプロセスを伴いがちであるので。やはり国際マーケットで回っている個々のもののトレーサビリティをどこまで確保するかというのは、難しい部分はあると思います。私も今日十分ご説明できるだけの知識を持ち合わせていないのですが、注意すべき点だとは思います。

- 崎田座長　ありがとうございます。ちょうど今水銀水俣条約が世界的に批准されつつあるということで、大気、製品、廃棄に分けて内容を検討する委員会が開催され、その成果を合同で取り組む仕組みが日本でもできたところです。そういう意味では日本は水銀を使わない動きに関しての世界のリーダーとして動こうとしていますので、既に日本の場合はあまり使っていないとしても、文言できちんと入れるとかそういうこと自体は非常に大事なことかと思います。一回使ったものを使えば大丈夫なわけなので。組織委員会の皆様にも、メダルに関してはこれまでもずいぶん色々な、携帯のリサイクルから上手く作るとか小型家電リサイクルから作るという提案がかなり来ていてご検討いただいているのではないかと思いますが、きちんとご検討いただければ。これは社会が非常に関心度の高いテーマだと思いますので、ご検討いただければありがたいと思います。それでは進めていきますので、また関連のあることはこの後のテーマの中で言っていただければと思います。
  それでは次は調達コードのところで、ここはできるだけ意見を言っていただきたいので、森口先生、もしお時間がないようでしたら後でメールでご連絡いただくとかですね。調達コードのところはご説明なしで進めてよろしいですか。簡単にご紹介だけ。

- 事務局　資料6を使って、調達コードのうち資源管理に関する部分について説明。

- 崎田座長　ありがとうございます。結局調達コードでしっかり資源管理に繋がる話をしていただくことで発生抑制型の調達ができるとか、その後の循環に資する調達ができるということに影響してきます。ですので今、資源保全に配慮した原材料の採取、丸6の容器包装等の低減と、その後3Rという項目があります。7番ですね。こういうところにきちんとその辺の精神が、現状のこの言葉でこめられるかどうかというあたりで、色々、関連するご意見などがあればご発言いただければありがたいと思います。よろしくお願いします。
  ちょっと先に申し上げると、私もこれをパッと見たときに、やはりきちんと資源を有効活用できるようなことを考えた上で調達するとか、そういうそもそもの考え方を色々なサプライヤーの方がしっかりとわかっていただくように、しっかり書いておくというのがとても大事なのではないかと、そんなことをお話しさせていただきました。ですから、こういう流れが項目としては入っていますけれども、どういう風にしっかりと担保していくかとか、やはりそういうところが実はとても大事なのではないかという感じがしておりました。色々ご意見などがあれば、お話しいただければと思います。森口委員、お願いします。

- 森口委員　10分くらいで出させていただくので。そういう意味では今おっしゃったことでいうと、2ページの4つの原則ってありますよね。たくさん書いてあっても、やはりシンプルでわかりやすいある種の精神が徹底しないといけないと思うので、そういう意味でいうと、この「どのように供給されているのかを重視する」ということももう少しわかりやすく書いた方がいいのかもしれないのと、3の「サプライチェーンへの働きかけを重視する」というの

は、どうすればいいのかということがこれを読んだだけではなかなかわかりにくいのではないかと思うのですが。これは何をすればいいんですかと聞かれたらどう説明されますか。

- 崎田座長　ここが実行性の担保というところにつながるという話ですね。
- 森口委員　「どこから採り、何を使って作られているのか」というのは、ちゃんとイメージが湧きますよね。有効活用をしてくださいという。
- 崎田座長　ご意見は全部言っていただいて。その方がいいですよね、時間的に。
- 森口委員　冒頭で他の WG の議論の状況のご紹介という他の委員会のご質問のお答えにもあったように、努めなければいけないというのが一体どこまでやったら努めたことになるのかというのがなかなか曖昧なので、一体どのレベルのものを求めているのかというのが、やはり全体にわかりにくいですかね。この資源管理に直接関わるところでも、基本は全部「努めなければならない」なんですよね。
- 崎田座長　どこまでここの実効性を担保するのかという、同じところにつながってくると思いますが、今この調達 WG ではどのような話し合いが進んでいるのか教えていただけますか。
- 事務局　今のお話で、まずこの調達コードでお示しして皆さんにご覧いただいているのは、基本的に組織委員会が買うもの全般にかかってくるようなものでございます。特に環境の部分については、その物が作られていく過程で省エネや、資源管理 WG に関連することでは容器包装の低減や 3R の推進ということを、作る過程・運ぶ過程で努めてくださいというようなことを書いています。やはりこれはどうしても全体にかかる話なので、これ以上やればいい、これ以下ではダメという線引きがなかなかできず、そういう意味でもどうしても、「努める」、「努めなければならない」という書き方にしております。
  そういう意味でどこまでやったらいいというのはなく、そこはどうしても、人権や労働のようにこれはダメというようなコンプライアンス的な話とは性格が異なるものでございます。そこはご理解いただきたいというのと、他方、場合によっては入札の中でそういった取組を評価するということもあり得ないわけではないという風には考えております。
  あとは、サプライチェーンへの働きかけという話でいうと、ここについては、ページで言うと 8 ページの方でこの調達コードの担保方法といいますか、基本的に先ほど見ていただいたのは基準の話で、我々が契約する一次サプライヤー、その上流の二次サプライヤー以上のところでこういうことに取り組んでください、というようなことを書いているわけですけれども、それをなるべくサプライチェーンに浸透させていく、あるいは取り組んでいただくというために色々考えていまして、サプライチェーンへの働きかけということでいうと、9 ページでサプライチェーン管理という項目を作って、我々の契約する相手というのは一次サプライヤーで、直接契約する相手というのは限られているわけですけれども、そこだけではなくて、そこに供給する二次サプライヤー、三次サプライヤーの方にも取り組んでいただきたいということです。ただ、そこに我々は直接アクセスできないので、一次サプライヤーから二次サプライヤー、二次サプライヤーから三次という感じで、なるべくこの調達コードに書いてあることが伝わるようにしてもらうというようなことをここで書いているということでございます。

- 崎田座長　ありがとうございます。今お話しいただいて、それでいいのですが、それをどう担保するかというあたりのご質問なんだと思うのです。
- 事務局　人権や労働で、例えば児童労働とか強制労働とか本当にダメなものというのが起きていないかどうかということは、我々モニタリングというかチェックしていく、あるいは苦情を受け付けていくという仕組みはまた考えております。他方で環境の話というのは、先ほど少し申し上げたように、これ以上やればいいとかこれ以下はダメというように一律に線引きできないものが多いので、契約ごとに特別な仕様で縛っていれば別ですけれども、一般論としてはなかなか難しいのかなという風に考えています。結局、努めたかどうかというのは最後は事業者の判断に委ねるところもありまして、そういう風になってしまうのかなと思っています。
- 森口委員　おっしゃっていることはわかるのですが、「努める」という書き方になっていてサプライチェーンの上流側への働きかけも、重視はするけれどやったかどうかということに関しての責任はあまり求めていないように聞こえたんです。それだとやはりサプライチェーンのマネジメントとしては成立しないというか、緩いという気がしていまして、どこまでマネジメントをするのかどうかという基本姿勢はもう少し明確にしていただかないと、結局一次サプライヤーがこう言っているからということだと、やはりここで言っている環境の話だけではなくもう少し不法労働や人権的な話も含めて、どのように供給されているかとか何を使ったかということは結局サプライチェーンの最上流までしっかりと担保して遡らないと。要するに廃棄物側でいうとマニフェストの逆なんですが、それをやらない限り結局担保できないので、そこの責任がどこにあるかが明確にならないようなコードを作るのはまずいのではないかというのが、責任主体が明確になっていないといけないのではないかと思うのですが。仮に「努める」であったとしても、「努める」ということはちゃんと一番上流側まで追ってくださいということを、定量的な目標ができないとしても、それはしっかりと働きかけを重視するだけではなく、必ずそれについては働きかけを徹底していただくとかいうレベルまではやっていただいた方がいいのではないでしょうか。
- 崎田座長　ありがとうございます。きっとその徹底が難しいものとやりやすいものと色々あるとは思いますが、特にここは資源管理の WG なので、例えば直接的に関係があるとすれば先ほどご説明があった環境のところの丸 4 の資源保全に配慮した原材料の採取、6 番容器包装等の低減、7 番 3R の推進、こういうようなところに関して、一次サプライヤーに対して明確にこれを謳っていただき、一次サプライヤーは二次サプライヤーに対してこれを謳うということを前提に提案書を出していただくとか、ある程度のことは言わないと徹底はできないのかなという感じはしますので、何か工夫していただけると嬉しいと思います。古澤委員、お願いします。
- 古澤委員　再確認したいのですけれども、さきほどの話で人権の分野と環境の分野で少し担保のところで違うという風に理解してしまったのですけれども、本当にそれでよろしいのでしょうか。と言いますのも、8 ページのところに、調達 WG で色々な議論がされていたと思うのですけれども、担保方法でサプライヤーの皆さんに調達コードを理解していただくところ

から始まって、コミットメントしていただく、あるいは色々やっていただく、さらにはモニタリングにも協力していただくし、改善措置を求める場合もあるということで、この辺は人権の分野も環境の分野もあるいは他の分野も同じ。

- 事務局　同じです。
- 古澤委員　わかりました。
- 崎田座長　あと、ISO20121はどういう風にここに関わってくるのか、様子を教えていただけますか。
- 事務局　ISO20121の議論はこれから始めるところですので、今の話はまた後でになると思います。
- 崎田座長　私が今申し上げたのは、例えばそういう議論の中に今お話ししたような内容をやっているかどうかというチェックを入れるとか、そういうようなこともきっと出てくると思うので、例えばISO20121をきちんと実行するということで、これをある程度担保するということは十分できるし、そのためにISO20121を取るんじゃないかと思いますので、それを上手く活用してきちんとやったらいかがかなと思います。
  これに関して何か。古澤委員、お願いします。
- 古澤委員　何点か申し上げます。まず一つ目、「努めなければならない」というところについて、低炭素WGでもこの表現について色々な議論がされているという風に伺っていまして、やはり低炭素 WG の議論の中でもまず少なくてもロンドン並みの明確な表現にしてもらいたいという意見が出ているという風に思います。「努めなければならない」というのは確かに日本語的に言うとふわっとした形になってしまいますし、やはり「可能な限り・・・しなければならない」ぐらいの表現が一番適格ではないかという風に思っていますし、ロンドンと同様にはっきりとしたメッセージで伝えていくことができればという風に思います。
  それから個別のところでいくつか申し上げると、3ページの環境のところの丸4ですが、資源保全に配慮した原材料の採取のところで、「森林・海洋などからの資源を使用する場合には」というところで、もちろん「など」ということで色々入ってくるのだと思うのですけれども、やはり資源の保全あるいは環境への影響ということで考えますと、先ほどお話しがあった金属資源ですとか、採掘時の環境影響が大きい、あるいは地域紛争等の問題も大きい資源ですし、あるいは農作物の中でも食材は食材で別途議論があるのだと思うのですが、例えばコットンのように水の使用等も含めて問題になる資源もあると思うんです。なので、もう少し幅を広げた形でイメージできるような表現に変えられた方がよろしいかと思います。
  それからもう一つは、次のページの丸7の関係なのですが、3Rの推進のところで、二つ目の段落「サプライヤー等は再生資源を含む原材料の利用」、それから「廃棄物の発生抑制や再使用・再生利用」というところに入っていくのですが、やはりカーボンの関係でも再生資源の利用というのは非常に重要なテーマだという風に思いますし、東京都の資源循環の行政においても再生資源の利用の推進というのはやはり非常に重要だと。再生資源はなかなか忌避をされて使われないというケースもよくありまして、我々が直接今苦労していますのは、再生骨材とか再生砕石なんですけれども、そのほかにもリサイクル鋼材ですとか、ペットボトル

から再生したポリエステル繊維とか、色々なものがあるんだろうと思うのです。ちょっとここの「再生資源を含む原材料の利用」については、非常に重要度が高いということで、できればもう少し強く、ワンセンテンス別にしていただくことも含めてご検討いただければと思います。以上です。

- 崎田座長　ありがとうございます。今の御提案なのですが、再生資源のところをもっと強調してという、そこに入れ込むだけではなく、少し特出しするくらいのというお話しがありました。調達WGは今並行して進んでいると思いますが、そういう提案を一度して、意見交換をしていただければありがたいかなと思いますが。やはり今までの委員会でもずっと小宮山委員長も色々おっしゃっていましたが、資源の飽和状態を考えると、再生材をしっかり使うということをキーワードにするということも考えられるとずっと言ってこられましたし、私たちも思いますし。ちょっと調達WGの方たちに、その辺一度意見交換していただくとありがたいという風に思います。勝野さん、お願いします。

- 勝野オブザーバー代理　本日は岩川の代理で参っております。私は調達WGの方にオブザーバーで参加させていただいておりまして、先ほどから議論になっている文末の表現の話ですが。先ほどから座長がおっしゃっているとおり、担保措置とセットの話だという風に思っておりまして、何々しなければならない、重視しなければいけない、「努めなければならない」とかいくつかバリエーションがある表現が出てきます。このパターンによってその表現に対してどういった担保措置を求めるかという整理をきちんとした上で表現の統一を図らないと、それぞれのWGで大事だと思うことは、それを専ら議論されていると、それを強調したいとお考えになる気持ちはすごくわかるのですけれども、特定の部分だけ異なる表現にしてしまうと並びからしてどういう担保措置かという整理と食い違ってしまうといけないので、担保措置とセットで考えるというお考えを持っていただくといいのかなと思います。

- 崎田座長　どうもありがとうございます。その通りでですね、その辺は事務局の方で、温度感をしっかり押さえてやっていただければありがたいと思います。ありがとうございます。まだ意見はあると思いますが、この後に今後議論する検討課題について、森口委員がお帰りになる時間ということで、そこのところ森口委員のご意見だけお伺いしておこうかと思うのですけれども。そこだけパッと進めてよろしいですか。事務局のみなさん、今後議論する検討課題について、少しご説明を。1分でお願いできますでしょうか。

- 事務局　資料7を使って、これまで委員から言及のあった施策について説明。

- 崎田座長　ありがとうございます。この中で大事にしておきたいところ、あるいはこの中に入っていないんじゃないかというところなど、もし何かございましたらご意見をいただければと思いますが。私が意見を伺いたかったのは、全体のいわゆる資源管理のこの事業をどういう風にきちんと回していくかということに関して、事業者さんに依頼するときには組織委員会の方で入札とかおやりになると思うのですが、それが全体の質を高めてきちんとやれるようにしておくというのは大事なことで、今まで色々どういう風に事業を出していくのかが重要とのご意見を細田先生などからもいただいていますし、何か関連するご意見をいただければ。

- 森口委員　そういう意味では、個別には色々思いもあるのですけれども、そうではなくて今崎田先生がおっしゃったことで言えば、資料７の準備段階の下から二つ目にある「資源管理における中間システムの形成」と書かれている、これ前回細田委員からご発言があり私も支持発言をしたことなのですが、これをとにかく早急に作って、ここでまた今投げかけられているような、我々委員がどれがいいとかというのはやはり非常に限られた時間でその時の思いで発言をしてしまって、それでバイアスがかかってもいけないと思いますので、むしろ全体を冷静に見て何を優先的に取り上げていかないといけないのかということの議論を含めて、そういうことを時間をかけて慎重に見るための仕組みづくりが必要だと思いますので。そういう意味では、今日の資料の７から言えばこの中間システムの形成は早急にやっていただくことが重要かなと。それが多分いろんなところに結び付いていくのではないかなと思います。
- 崎田座長 ありがとうございます。それに関して古澤委員、実際に東京都で資源管理の御専門家としてやっておられるわけですが、こういうシステムがあった方が大会としてはうまくいくのではないかというご意見が委員の皆様からは非常に多いのですけれども。
- 古澤委員　私もそれには同感です。ロンドンの時にWRAPが色々な形で組織委員会をサポートされたという風に伺っているのですけれども、残念ながら日本に相当するような機関がないようなところがあって、もちろん廃棄物の処理だけではなくてリユースのところ、リサイクルのところ、どういったところにルートがあって、どういうやり方でやっていくのがベストだというのは、当然契約等々の責任は組織委員会にありますけれども、そういった現場の実務からアドバイスをするという体制というのはどうしても必要だろうと思っております。
- 崎田座長　いわゆるアドバイスをするような、総合的に、例えばこの委員会も本当はそういう機能ですけれども、ですからこの委員会がもっと頻繁に開かれて、もっと具体的なことをやるという、そのぐらいのイメージの中間システムという理解でよろしいでしょうか。森口委員、どんな感じでイメージをされていますか。
- 森口委員　いろんなレベルがありうると思います。これもすでにWGですよね。多分色々な検討会で言えば、このレベルが検討会で、その下にWGがあって本当に働く人たちがいるわけですよね。WGはまた事務局があって、事務局は自ら調査ものとか設計ものができるような体制がついていると思うのですが、今はそれが無くて組織委員会事務局が自らおやりにならないとできないということだと思いますので。実際にソフトなデザインというか、色々な検討をして具体的にものを動かしていくためのマンパワーがどうしても必要ではないかと思います。
- 崎田座長　そうすると、まったく別に作るというよりは、とにかくこのWGをもう少し動かすような形で作っていただくと良いのでしょうか。今、古澤委員がロンドン大会で言うWRAPのようなとおっしゃったイメージはわかりますので。ちょっとまた進め方に関しては、少し意見交換をさせていただきたいという風に思います。ありがとうございます。
  森口委員お引き留めして申し訳ありませんでした。とりあえず今はそれでよろしいですか。ありがとうございます。
  少し資料７へ進めてしまいましたけれども、事務局の方でご用意していただいた資料でご説明いただいていない参考資料というものがありますので、これだけご説明いただけますか。

- 事務局　参考資料について、前回提示したものから情報を更新したことを説明。
- 崎田座長　ありがとうございます。以前このデータを出していただいた時には、発生量の予測データも別紙で出していただきましたけれども、あちらの新しいバージョンはまだないということですか。
- 事務局　そこについては、まだ進んでいない状況です。
- 崎田座長　わかりました。今後また出していただけるということでよろしいでしょうか。それともあれは推計ですので、もう少し後になるのでしょうか。
- 事務局　具体的に他の機能の動きが出てこないと、なかなかさらに推計を修正するというところはできないので、他の機能とも動きを合わせながら随時やっていきたいと考えております。
- 崎田座長　今後実際にどのくらいの規模の事業者さんがどういう作業が必要になるかを考えると、その推計値が出てこないとあまり明確になってこないのかなという感じもしますので、どこかでそのあたりもう一段階必要という風に思います。古澤委員、お願いします。
- 古澤委員　資料の 7 ですが、この参考資料の議論をした時にも、私も確か発言したような記憶があるのですが、やはり仮設施設あるいは仮設の設備、あるいは大会で一次的に使うもののリユースみたいなことが大きなテーマだと思うのです。こちらにも少しオリンピックで使用した物品を付加価値として、あるいは観光資源として云々は入っているのですが、先ほども少し備品について最初からリユースを考えながら調達していこうじゃないかという話もあったと思うのですが。仮設の資材とかあるいは仮設施設そのものについても、当然これは立候補ファイルの時にも仮設については計画的なリユースというのがあったと思うのですが、そこのテーマが漏れているという感じがします。参考資料の方で、前回この資料が出たときにお願いしたのは、どういう仮設施設なり設備があるのか、そのリストができるだけ欲しいというお願いもしてあったと思いますので、その辺の作業も進めていただければと思います。
- 崎田座長　仮設資材の資材調達とか、調達の際にリユースをどのくらい考えておくかとか、現実にはそういうことが期待されているわけですけれども、委員会の話でもそういうことが出てきていますが、この資料 7 のところには建設廃棄物という言葉で書いてあるので、建設段階の資源と廃棄物の管理とかそういう意味の考え方がもう少し必要という、そういう考え方でよろしいですか。
- 古澤委員　あるいは、仮設施設に係るリユースでも、ズバッとそういうことでいいんだと思います。重要な課題だと思いますので。
- 崎田座長　わかりました。仮設施設におけるリユースの推進ですね。ありがとうございます。最後、走って色々やっておりますが、調達のところでまだご意見残っている方もどうぞお話しいただければと思いますし、今後の検討課題の中で漏れていることですとか強調したいことなど、今後の流れをきちんと考えていくうえで大事ですので、お話しいただければありがたいと思います。

- 事務局　一点よろしいですか。調達コードのところについては、また調達コードのWGでも検討しようと思いますけれども、森口先生もおっしゃっていたサプライチェーンの管理、浸透の徹底といったお話しについては、それは調達 WG の中でもご意見はいただいているのですが、他方でサプライチェーンは非常に長くて複雑という場合も多いので、そこはできそうに思えて現実はなかなか難しいというご意見もあるということをご理解いただければと思います。

- 崎田座長　わかりました。ありがとうございます。先日、たまたま隣の席で、建設とか廃棄物と関わっておられる業界の方がお話をしておられました。「最近オリンピックでは、調達のところで人権とか労働とかいろんな視点について考え始めていると聞きます。なかなかこれから大変ですね」という風なことを一生懸命情報交換をしていたんですね。やはり世の中そうやって変わっていくのではないか、変わっていくというのも変なのですが、やはり色々な意味で変化の兆しにはなるのかなと思っています。無理にやりすぎて反発というのは困りますけれども、半歩進めるということの意味がすごくあるのかなと思ってその時には非常にほーっという感じで話が聞こえてきましたけれども。やはりそういう風に、今の商習慣で言えば大変でも、半歩進めていただくとこれからの社会にとっては非常に持続可能性に貢献できるのではないかということに関しては、皆できちんと意見交換をしていく体制でいければなという風に思っております。よろしくお願いします。

- 古澤委員　その関係で申し上げると、低炭素WGでも非常に関心をもって調達コードについて議論されていると思いますので、ぜひその辺のやりとりも資源管理WGの委員の先生方にもご提供いただき、かつ低炭素WGと同様にこちらのWGでも資源管理に関わる部分はしっかり見ていくという形でご議論いただくのがよろしいかなと思います。

- 崎田座長　なかなか調達WGまで傍聴させていただくことができなかったりするのですが、また色々と情報をいただきながらやっていきたいと思います。よろしくお願いします。
それではどんどん進めておりますが、資料6、7、参考資料、この辺で大事にしておきたいこと、抜けているところ、気になるところなどあればご発言いただきたいですし、もし後でお気づきになった点があればメール等で事務局までいただければいいと思うのですが、何日くらい日程的には余裕がありますか。

- 事務局　できればちょうど一週間みて、来週の月曜日までにということで、短期間ではありますがお送りいただければ助かります。

- 崎田座長　わかりました。後半少し走りましたので、ご意見がある方は一週間ぐらいでいただければと思います。今手が上がりましたので、臼井さん、お願いします。

- 臼井委員　資料7についてなのですが、今後また運営計画については拝見できると思うのですが、運営計画に書かれているような資源効率の最大化など、運営計画の中身と齟齬がないように確認できればと思います。

- 杉山委員　この参考資料で、以前のバージョンがずいぶん前になってしまったのでわからなくなってしまったのですが、この最初の建設廃棄物に関連するところで、施設の撤去という

のが入っていますけれども、国立競技場と恒久施設に関しては施設の撤去は以前にあった建物の撤去ということで、オーバーレイの部分については仮設なのでそのもの自体の撤去という理解でよろしかったでしょうか。

- 事務局　はい、そうです。
- 崎田座長　ありがとうございます。あと資料 7 で私から一言。大会期間中の食品ロス対策というのがありますけれども、これ主に選手村とかスタッフのところでかなり重要だと思っております。ロンドンの時もかなり食品ロスのことは言われましたけれども、結果的にあまり体系的に成果をあげたようなことは、成果がなかなか難しかったという印象がありますので、東京では体系的に取り組むという初めてのケースとして大事なのではないかと思っております。それで情報提供なのですが、先日全国の自治体で食品ロス対策の施策の情報提供をするネットワークが、福井県を中心に全国 44 都道府県と 201 市区町村で設立され、全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会というものができました。その設立総会が先日ありまして、内閣府の消費者庁の担当課長さんにも来ていただきましたし、環境省や農林水産省にもやっていただいていますが、また 28 日に大きな大会が東京であります。そういう風に今大きな流れとして動いていますので、全国の自治体も上手く参加いただくとすれば、キャンプ地とか色々なものもあるかもしれませんし、少しこの辺のところで目に見える形で動きが作れればいいかなという印象も持っております。これは私の意見です。
- 勝野オブザーバー代理　先ほど選手村のレポートの中で、食品ロスの資源化の取組みを断念した、コンポスト化を断念という説明がありました。私もパラリンピックの選手村の食堂にお邪魔したのですが、パラリンピックの時は、片付けは全部スタッフの方がしてくださっていて、おそらくそのシステムがずっとオリンピックの時から徹底していてスタッフの方が分別をしていればできたのではないかという風に思いまして。オリンピックの時に片付けの時にスタッフがついて全部分別のことをやっていたかと疑問に思いました。要は選手に分別まで負担させるというのは非常に難しくて、それを先ほど座長がおっしゃったように体系的に対応していくというのはそういうことなのかなと、最初からそういう風に仕組んでおけばできたことを途中からやっても難しいということもあると思います。なぜできなかったのかということを調べておいていただけるとよいかと思いました。
- 事務局　コンポストは、それを請け負う業者がいなかったということです。
- 勝野オブザーバー代理　なるほど。分別に関していえば、私も行ってみてどこに何を捨てたらいいのかよくわからなかったので、わかりやすさということは大事だと思うのですが、そういう対応のところで、もちろんコストは下げなければいけないですが、スタッフが居てくれるのと、居てくれないのでは全然分別ができる、できないに差が出てくると思います。
- 崎田座長　ありがとうございます。尽きないとは思いますが、少し時間を超過してしまいました、申し訳ありません。この後色々とお気づきの点はこの一週間ぐらいでいただければと思います。事務局の方から何か連絡事項などあれば。
- 事務局　冒頭で申し上げたように、計画の修正版の対応について個別に日程調整させていた

だいて、ご相談に伺いたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

- 崎田座長　ありがとうございます。全員で会ってこうやってお話しする機会というのはなかなか調整が難しいということですので、ぜひまたみなさん事務局に色々なことをお話しいただき、効果的にまとめていければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。
- 古澤委員　一点だけ。今日いただいた資料 3 で、調達コードのスケジュールは明示をされているのですが、運営計画のスケジュール感なんですが、11 月 7 日に DG、その後委員会があって、さらに組織委員会の中で決定されて 12 月というスケジュールでよろしいのでしょうか。
- 事務局　現状は、今古澤委員がおっしゃった内容で動いております。
- 崎田座長　ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。今日はお疲れさまでした。

以上

資料３

第5回資源管理WG

資源管理の進め方と目標設定の考え方、飲食提供に係る廃棄物の課題に関する資料

1. 資源管理に関わる背景と大会の方向性
2. 大会から出る廃棄物と検討の進め方
3. 資源管理に係る目標設定の考え方
4. 資源管理WGでの討議の進め方
5. 個別課題：飲食提供に係る廃棄物の課題
6. その他

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
大会準備運営第一局　持続可能性部

2017年5月8日

1．資源管理に関わる背景と大会の方向性

(1)日本国内の廃棄物の状況

・日本全体の廃棄物の直接埋立量は
一般廃棄物も産業廃棄物も１％

全国の廃棄物 平成26年度実績

区分	排出量	直接最終処分量	
産業廃棄物	392百万トン	5.3百万トン	1%
一般廃棄物	44百万トン	0.52百万トン	1.2%

出典：　産業廃棄物排出処理状況等（平成26年度実績）環境省
一般廃棄物処理事業実態調査の結果（平成26年度）について 環境省

(2)国際動向

SDGsにおいても持続可能な資源の消費と生産は目標の一つ

(3)ロンドン大会の廃棄物への取組み実績

廃棄物ゼロ方針策定 直接埋立ゼロの目標を策定・実施	運営で発生した廃棄物で埋立処分を回避した割合 １００％
施設撤去で発生した廃棄物の 再利用・再資源化率 ９９％	大会運営で発生した廃棄物の 再利用・再資源化率 ６２％

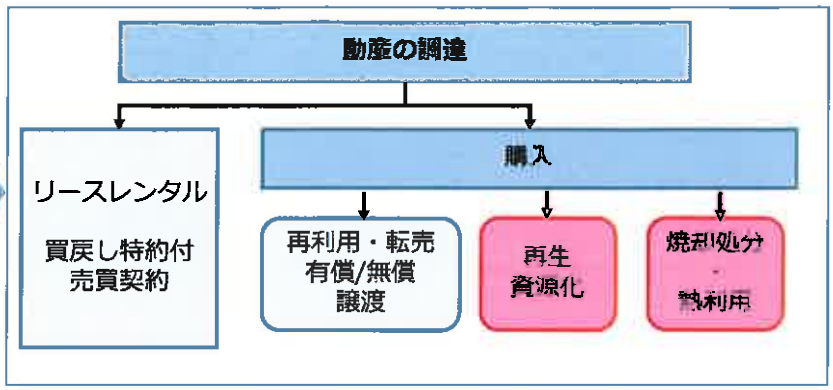
東京大会の方向性(組織委員会案)：後利用等及び再資源化の最大化を図り、直接埋立ゼロに近づけたい

2．大会から出る廃棄物と検討の進め方

◆大会で想定される廃棄物の例

仮設施設	○ウォームアップ会場等の施設 ○テント、プレハブ、観客席 ○工事により発生する廃棄物
調達備品 消耗品	○選手村機器備品・競技用備品 ○放送用空調機器・ケーブル ○什器・ＰＣ等事務用品、 ○誘導棒等その他消耗物品　等
会場装飾	○オリパラの表示幕 ○その他会場を装飾する物　等
運営廃棄物 （食品）	○調理場から出る食品廃棄物 ○選手観客等の残飯
運営廃棄物 （その他）	○ペットボトル・缶・瓶 ○コップ・割箸等使捨食器 ○コピー用紙・紙屑　等
建設事業による廃棄物	○建設廃棄物 ○建設による伐採樹木等の処理
売店事業者・放送事業者・団体等の廃棄物	○食品廃棄物 ○使い捨て食器 ○放送ケーブル等廃棄物 ○その他持ち込み物

◆廃棄物後利用・再資源化の考え方



◆組織委員会の検討の進め方

物品の仕様検討・調達の段階から、後利用・再資源化の検討を進める

3．資源管理に係る目標設定の考え方

<資源管理に係る目標のイメージ>

- 直接埋立回避の目標（対象範囲の確定）
- 調達物品の後利用・再資源化率
- 焼却処理のエネルギー回収率
- フードロス対策の目標
- 運営廃棄物の再資源化率
- 食品廃棄物の再資源化率
- 建設廃棄物の再資源化率

第2版に向け、目標指標を選定し、定義を明確化し、目標の具体化を進める

4．資源管理WGでの討議の進め方

大会のための物品調達を決めるための進捗は、モノによって様々であるが、2018年頃には詳細な仕様などが確定していくものが多いと想定される。持続可能性に係る討議は仕様決定に先駆けて行う必要があることから、2017年に討議を深めさせていただきたい

区分	討議内容(案)
方針	・資源管理の方針 (後利用等及び再資源化の最大化など)
しくみ	・最小化に向けた取り組み(3R全体像) ・目標指標の考え方・目標に含める範囲など
個別課題	・食器リユース・リサイクル、食品ロス ・その他主要な課題
全体レビュー	・持続可能性運営計画第2版案の全体レビュー

項目	2017年			
	5	6	7-9	10-12
資源管理WG スケジュール(案)	●5th (方針・しくみ・飲食・他) ●6th (飲食続き・方針・しくみ他) 飲食関連 調査・調整 後利用等調査		○7th (後利用・他) ○ ※日程・回数・テーマは今後調整	○

5．個別課題：飲食提供に係る廃棄物の課題（食器リユース/リサイクル・食品ロス）

議論の進め方

①飲食(食器のリユース・リサイクル、食品ロス抑制など)の持続可能性(主として環境面)に関する専門的な見地からの検討課題提起・方向性の議論をいただきたい

②飲食戦略の具体的な運用について検討を行う「飲食戦略検討会議」が立ち上がっており、当WGにおける専門的な見地からの検討・方向性の議論と連携させたい

検討の視点

・食器の取り扱い(リユース食器活用、環境配慮素材の食器活用など)
・食品ロス抑制

5．その他

委員のみなさまからの意見・提案・情報共有など

資料4

「東京2020大会の食品ロス削減」のデザイン 170508版資料

NPO法人　持続可能な社会をつくる元気ネット

初版161222（地球環境基金2016年度助成事業　第3回検討会合）

161222　NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

想定される　東京2020の食品ロス＆食品廃棄物　発生源

発生源（食材の対象）	資源管理の役割（調達＆廃棄）	食品ロス（発生要因）	食品廃棄物（発生要因）	備考
選手村（選手・関係者）	ケータリング業者	食材調達・保管、調理、食べ残し（業者・選手等）	保管、調理、食べ残し、容器包装、食器	24時間対応
競技会場　34+1会場（選手・関係者）	ケータリング業者	食材調達・保管、調理、食べ残し（業者・選手等）	保管、調理、食べ残し容器包装、食器	
〃 調理側（観客向け）	施設管理者、店舗、食関連スポンサー	食材調達・保管、調理、売れ残り（業者）	保管、調理、食べ残し	
〃 食事側（観客向け）	施設管理者、店舗、食関連スポンサー	食べ残し（観客）	食べ残し、容器包装、食器	
IBC国際放送センター プレスセンター（プレス）	ケータリング業者	食材調達・保管、調理、食べ残し（業者・プレス）	保管、調理、食べ残し	24時間対応
ライブサイト（観客・市民）パブリックビューイング	実施自治体 施設管理者、店舗	食材調達・保管、調理、食べ残し（業者・観客）	保管、調理、食べ残し容器包装、食器	
キャンプ地（選手・関係者）	実施自治体 ケータリング業者	食材調達・保管、調理、食べ残し（業者・選手等）	保管、調理、食べ残し容器包装、食器	

組織委員会資料を参考に崎田作成　2016. 10. 25資料を11. 30改訂　12. 22資料

161222　NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

東京2020大会「食品ロス削減」のデザイン（全体概要）

■Ⅰ　準備段階（2017～2019）の配慮事項

①家庭・外食・ケータリング等で「食品ロス削減」の世論形成

②プレ大会等のメガスポーツイベントで試行し、反省点のPDCAを回す

③サプライチェーン関係者への研修、国内外の消費者・アスリートへの事前情報提供

■Ⅱ　実施段階（2020）の配慮事項

①適切な食材調達・保管　（食品リサイクル・ループの食材活用も）

②調理時のロス　削減

③食べ残し　削減

④効果の見える化、定量化

⑤関係者の実施の確認と評価

⑥フードバンク・コミュニティーレストラン等の活用

⑦食品廃棄物の飼料化・肥料化のループを回す

■Ⅲ　容器包装廃棄物の発生抑制

■Ⅳ　情報発信と、レガシーとして「食品ロス削減」の社会への定着（2020～）

161222 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

■Ⅰ　準備段階（2017～2019）の配慮事項

①家庭・外食・ケータリング等で「食品ロス削減」の世論形成

☛「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」との連携

2016年10月10日設立された、食品ロス削減に関心持つ全国自治体のネットワーク

②プレ大会等のメガスポーツイベントで試行し、反省点のPDCAを回す

☛2018年9月25日（開会式29日）～10月9日「福井しあわせ元気国体」「全国障碍者スポーツ大会」

（2019年9月28日～10月8日「いきいき茨城ゆめ国体」10月12日～14日「全国障害者スポーツ大会」）

2019年9月20日～11月2日「第9回ラグビーワールドカップ」

2020年キャンプ地

③サプライチェーン関係者への研修、国内外のアスリート・観客への情報提供

☛ケータリング事業者対象研修

☛国内外のアスリートへの情報提供と、食事選択の意向調査

☛国内外の観客への情報提供。「もったいない」精神や「資源分別」ルールを事前に世界に発信。

■Ⅱ　実施段階（2020）の配慮　①適切な食材調達・保管

●食品ロス削減に向けた、適切な食材調達

☛選手村・プレスセンターのケータリング事業者が同じか違うか要確認
　一括調達か施設ごとの分散調達か

☛各競技場の選手用食事と観客用（リオではバーガー類）は調理済み搬入なのか、仕組みの確認

☛おいしいメニューの開発

☛適正な量の調達
　・アスリート、プレスの食事の選択に関して事前の意向調査を踏まえ、食材調達量の予測に活かす
　（ベジタリアン、ビーガン、ハラル、コーシャ）など

☛調達した食料の納入方法の工夫

☛毎日、全会場・施設の食べ残し量を計測し、反省会を実施し、翌日の調達・調理予測に活かす

●適切な物流と保管

☛真夏の安全対策最優先

☛天気予報の予測を活用する

■Ⅱ　実施段階（2020）　②調理時のロス削減

●適切な量を調理する（いかに料理の作り過ぎを防ぐか）

☛調理が必要なのは選手村とプレスセンターだけか、要確認。

☛24時間対応が原則かどうか要確認

☛無駄の出ないメニューづくりの研修を事前に実施

☛無駄の出ない調理の研修を事前に実施

●毎日、全会場・施設の食べ残し量を計測し、反省会を実施し、翌日の調達・調理予測に活かす

■Ⅱ　実施段階（2020）　③食べ残し削減

●食べ残しを減らす

☛おいしく食べる配膳の工夫。（産地表示？カロリー表示？）

☛大盛り、中盛り、小盛りとサイズの違うメニューを3段階にして提供する
（盛り方を変えるだけより、明確なシステムづくりに）　提供方法の工夫

☛選手への提供は1時間で、というルールの確認と対応
（ロンドンでは1時間は選手へ、2時間目はスタッフレストランへ移動させ、食べ残し削減）

☛あと15分ほどになったら、「連れてってシール」を添付してはどうか

●食べ残しを測る

☛食べ残し（生ごみ）の分別のためのスタッフ研修の徹底

☛毎日コーナーごとに食べ残しを測り、写真も撮り、調達・調理部門との反省に活かす

161222 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

■Ⅱ　実施段階（2020）　④効果の見える化・定量化⑤実施の担保⑥フードバンク　⑦資源循環

④効果の見える化、定量化

☛調達食材の保管、移動、調理の流れを「ICタグ」で管理し、無駄を出さない

⑤関係者の実施の確認と評価

☛サプライチェーン関係者の研修の実施

☛規模に応じたマネジメントシステムの導入促進

⑥フードバンク・コミュニティーレストラン・こども食堂等の活用

☛調達したが調理せずに余る食材が出てしまった場合は、フードバンクに提供する

⑦食品廃棄物の循環利用と生産された農産品のリサイクル・ループを回す

☛食品ロス削減徹、食品廃棄物の飼料化・堆肥化のリサイクルループづくりと畜産品・農産物の活用。
そしてバイオガス化、熱利用の徹底　など　（バイオガスで聖火を、という提案もある）

☛油のリサイクル

■Ⅲ 容器包装廃棄物の発生抑制への配慮

●選手村、プレスセンターなど、食事環境の整っている場所

☛食器とカトラリーはできる限り、リユースできる物を使用し、洗浄して活用してはどうか。

●各種競技場など、食事環境の整っていない場所

☛基本的には食器を使わずに、ハンバーガーなどは紙袋で提供し、紙袋は資源分別する

☛容器が必要な食べ物を提供する場合は、プラスチックではなく紙製にして資源分別してはどうか

☛カトラリーと箸が必要な場合は、間伐材によるものにする。

☛ビールや飲料は使い捨て容器は避け、デポジット付リユースカップにして、お土産として持ち帰りリユースできるものにしてはどうか。その際、また返却されたものは、洗浄して活用する。

☛公式グッズとして、プラスチックのマイボトルを販売し、競技場で飲料水を無料で提供できるよう水道蛇口を整備する。

●資源分別

☛選手村とプレスセンターなど、調理場では、生ごみを分別回収する

161222 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

■Ⅳ 情報発信と レガシーとして「食品ロス削減」の社会への定着（2020～）

●情報発信

☛実施に関する情報発信を徹底することで、社会の認識も高まり、東京2020大会が評価されると共に、大会後のレガシーへの定着につながる。

☛実施と情報発信に関し、食品ロスに関する政府省庁会合のまとめ役とメンバーである、「消費者庁・農林水産省・環境省」と、東京都と、「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」（事務局福井県）と緊密に連携しながら取り組む。

●特に外食産業への効果を考える

東京2020大会の食品ロス削減・廃棄物削減の成果を「外食やサービス産業」向けに発信。

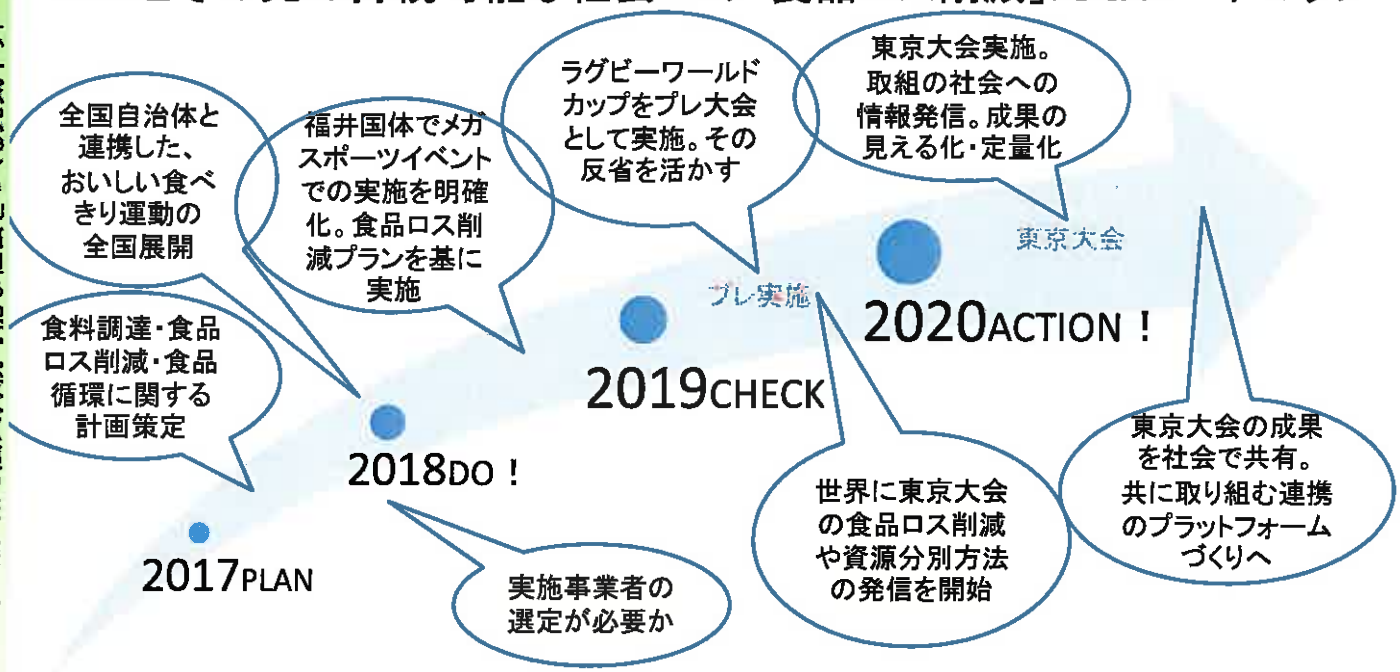
環境省・東京都・東京商工会議所・NGO等が連携し、食品ロス削減の具体策を提供。

「東京2020協定」として、ゼロウェイスト（をめざす）宣言をしてはどうか？

●自治体は、食品ロス削減店舗表彰や登録制度を運営し、事業者の取組を応援し、その情報を地域社会に発信して、外食店での注文時や各家庭での意識を高める

161222 NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット

2020とその先の持続可能な社会への「食品ロス削減」PDCAロードマップ



参考資料

世界の食品廃棄物

年間　13億トン
国連食料農業機関FAO2011

これは
・世界の食料生産の3分の1
・カロリーで4分の1

一方
・世界の栄養不足人口は8億500万人
　世界人口の9人に1人（FAO2012～2014）

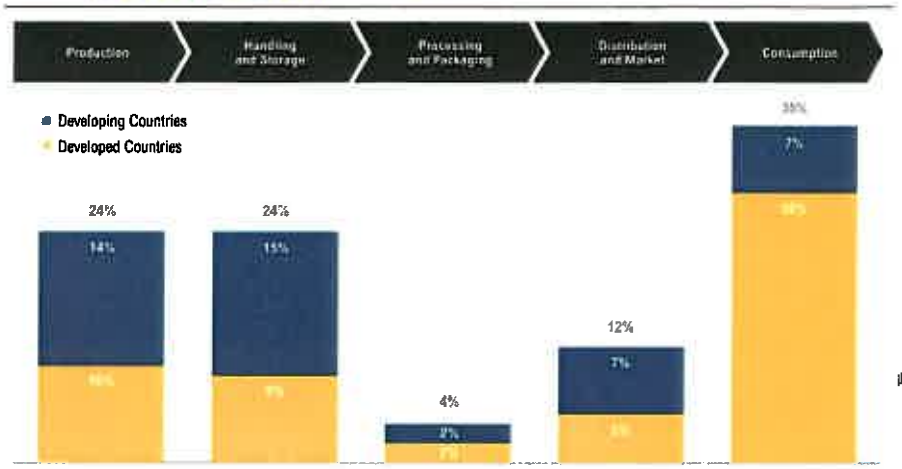
SDGsデータを基に
崎田裕子　作成資料

「持続可能な開発目標（SDG ‘S)」2015

2030年までに

小売・消費段階での世界全体の一人当たり「食品廃棄物」を半減させ、
収穫後損失を含めた製造・供給チェーン全体での「食品ロス」を削減する。

Figure 5 | Share of Total Food Loss and Waste by Stage in the Value Chain, 2009 (100% = 1.3 gigatonnes [Gt])



UNEPHPを基に
崎田裕子　作成資料

Note: Number may not sum to 100 due to rounding.
Source: WRI analysis based on FAO, 2011. *Global food losses and food waste—extent, causes and prevention*. Rome: UN FAO.

日本の食品廃棄物は2800万トン。
そのうち632万トン（年間）は
まだ食べられる　食品ロス

国連WFP(国連世界食糧計画)
2014年82か国8,000万人対象
320万トン支援

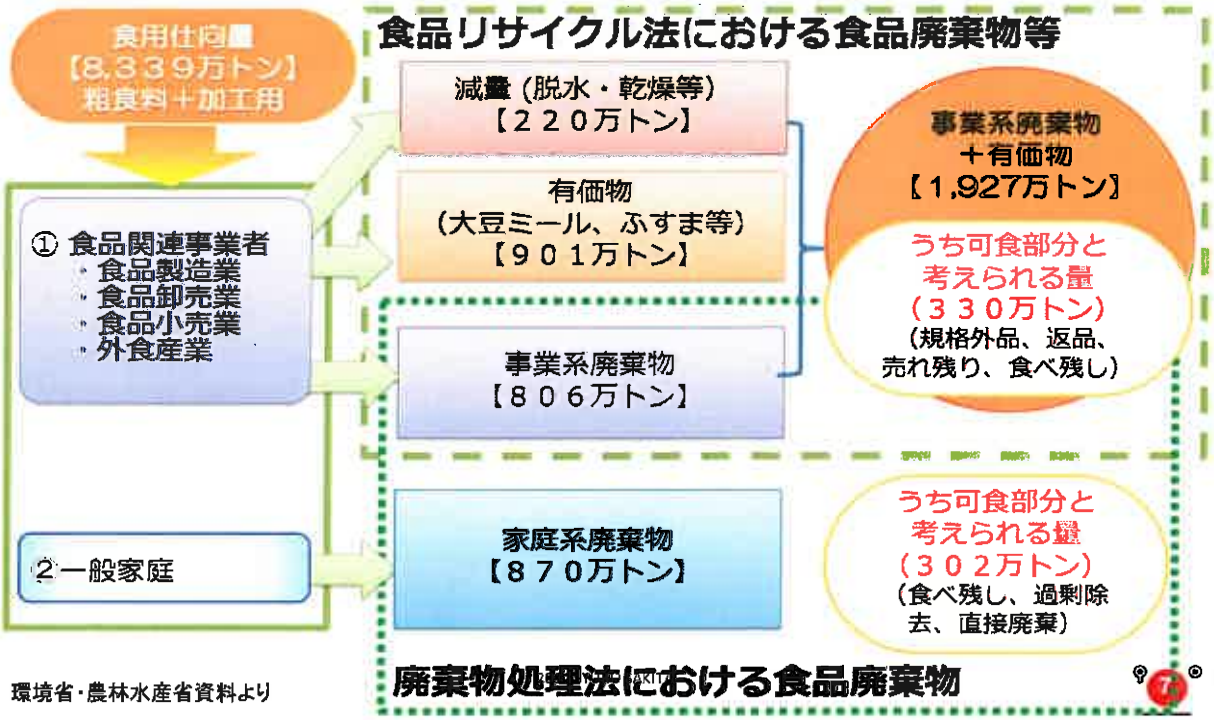
農林水産省・環境省
データを基に
崎田裕子　作成資料

事業系食品廃棄物　1,927万トン
（うち可食部分330万トン）
家庭系食品廃棄物　870万トン
（うち可食部分302万トン）
農林水産省2013推計

★2016・10・10
44都道府県+201市区町村
全国おいしい食べきり運動
ネットワーク協議会設立

「製造・食品メーカー・卸・小売・飲食・消費者
すべての取組み」と
「連携・協働による食品ロス削減」

食品廃棄物等の発生状況（平成25年度推計）



環境省・農林水産省資料より

「食品ロス削減」に向けた各主体の役割

食品ロスの発生要因は様々。できる事から着実に進めたい

それぞれの立場でできる事、連携でできること。

製造	卸売	小売	外食	家庭
• 需要予測精度向上 • 製造ミス削減 • 賞味期限延長・年月表示化 • 期限設定情報開示	• 需要予測精度向上 • 売り切り • 配送時の汚・破損削減	• 需要予測精度向上 • 売り切り • 小容量販売 • バラ売り	• 需要予測　精度向上 • 調理ロス　削減 • 食べ切り　運動 • 小盛サービス • 持ち帰り（自己責任）	• 冷蔵庫・家庭内の在庫管理 • 計画的な買い物 • 食べ切り • 使い切り • 期限表示の理解

・フードチェーン全体での返品・過剰在庫削減
・余剰食品のフードバンク寄付

食品ロスの実態把握・削減意識共有、もったいない精神

2017 YUKO SAKITA　　環境省資料より作成

世論形成に向けた参考資料：「全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会」

3R推進全国大会inふくい（H27.11.21）にて
「全国食べきりサミット～おいしい日本を食べきろう～」を開催
・食品ロスに取り組む自治体間のネットワークを形成し、
継続的な情報共有と取組の拡大を目指すことを参加自治体と合意

組織

「おいしい食べ物を適量で残さず食べきる運動」の趣旨に賛同する自治体により、 広く全国で食べきり運動等を推進し、以て3Rを推進すると共に、食品ロスを削減することを目的として、本年10月10日に設立

会　長　崎田裕子　（3R活動推進フォーラム　副会長
NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット　理事長）

会　員　44都道府県、205市区町村（H28.11.9現在）

事務局　福井県　循環社会推進課

福井県安全環境部循環社会推進課作成資料

活動内容

情報共有・発信

ア　全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会のホームページ
・参加自治体の取組み概要を紹介
・参加自治体の関連イベントやキャンペーンを随時情報発信

イ　参加自治体間で食品ロス削減の施策内容とノウハウを「施策バンク」として共有

全国食べきりネット　検索

ウ　食べきり、食材使い切りレシピをクックパッドで公開

・消費者庁の特設コーナーに、参加自治体が作成したレシピを掲載

福井県安全環境部循環社会推進課作成資料

全国共同キャンペーン　（普及、連携および協働）

ア　外食時の「おいしい食べきり」全国共同キャンペーン

・12月～1月の忘新年会シーズンに、
「宴会5箇条」や「30・10運動」の普及を商工会議所等に要請

・全国チェーンの飲食店に、小盛りサイズメニュー導入等を要請

福井県作成「宴会5箇条」

宴会時

宴会や立食パーティーなどは食べ残しが多くなります。
食べ残しを減らし、宴会を楽しく過ごすために食べきりを実践しませんか？

幹事さん必見!!

宴会5箇条

その1 出席者の性別や年齢などを店に伝え、適量注文に心がけましょう。

その2 酒宴の席では、開始30分、終了10分など、席を立たずにしっかり食べる時間を作りましょう。

その3 料理がたくさん残っているテーブルから、少ないテーブルへ料理を分けましょう。

その4 幹事さんや司会者の方は、宴会中に「食べ残しのないように！」の声かけをしましょう。

その5 食中毒の危険のない料理を持ち帰り用として折りはめで注文するなど、食べ残しがない注文の工夫をしましょう。

小盛りサイズメニュー

福井県安全環境部循環社会推進課作成資料

全国共同キャンペーン（普及、連携および協働）

イ　家庭での「食材おいしく使い切り」の全国展開

・全国のスーパーに使い切り食材販売
（少量、ばら売り等）を要請

・家庭の食材使い切り・水切りチェック行動等を、
各自治体で婦人会等の消費者団体や住民団体
と連携して実施

福井県内食品小売店での
野菜のばら売りの例

福井県安全環境部循環社会推進課作成資料